



ふんぽりし

白山市国際交流協会 Hakusan International Association

No. 10

2010年10月発行

8月に開催したジャパンテント白山市プログラムでは、留学生の皆さんが、尾口地区の目附谷(メッコダニ)川で岩魚つかみどりを体験したほか、砂防ダム周辺では、川泳ぎを楽しみました。



夏のアウトドア活動を満喫

山、川、滝…豊かな大自然を有する白山ろく地域で、今夏も多くの外国人の皆さんが、アウトドア活動を楽しみました。市国際交流協会では、6月20日、白山スーパー林道ウォーク実行委員会主催の三方岩岳トレッキングに参加しました。県内在住の9か国35名の外国人が参加し、トレッキングを楽しみました。(写真右、下)



C・O・N・T・E・N・T・S

■夏のアウトドア活動を満喫.....	1
■青少年ホームステイ交流・ジャパンテント2010	2~3
■H.I.A.だより.....	4
■国際交流サロンのページ.....	5
■あなたも親善大使お便りコーナー.....	6
■JICA現地レポート	7
■H.I.A.からのお知らせ.....	8

特集

今夏の中高生ホームステイ交流は、オーストラリア・ペンリス市へ市内の高校生7名、イギリス・ボストン町へ中学生18名、中国瀋陽市へは中高生7名がそれぞれ訪問し、ホームステイを通じて、現地の生活様式や文化を体験しました。それぞれの都市を訪問した生徒の感想文を紹介します。



イギリスで学んだこと M.Nさん (中学3年)

私がイギリスで過ごした2週間は、私の人生の大きな財産になりました。自分の知らない世界に足を踏み入れることは、少しの不安と緊張でいっぱいでした。そんな私を笑顔で温かく迎え入れてくれたのは、ティアナ家族です。パートナーであるティアナは1つ年下で、私のために日本語の簡単なあいさつを勉強してくれました。英語が分からなかった時、ジェスチャーを使って私に分かるまで何度も話してくれました。お母さんも妹も弟も私のことを一番に思って優しい言葉や心遣いをしてくれました。言葉は違うけれど、私

は家族の一員として国境を越えて、「人と人」という関係でつながり合うことが出来ました。

また、私はイギリスで日本に閉じこもって知っていることの出来ないことを学びました。それは、世界にはとても多くの価値観があるということです。それは、イギリスの人々が様々な価値観をもっているのではなく、イギリスの国に価値観があるということです。日本人には当たり前なのがイギリス人には当たり前ではなかったり、イギリスでは当たり前なのが日本では当たり前でなかったりします。そういう部分で日本には日本の良さがあるし、イギリスにはイギリスの良さがあるんだと気付く面がたくさんありました。

2週間のホームステイは、とても2週間だと思えないくらい実の詰まった貴重な時間でした。全部が全部、楽しい時間ではなかったけれど、自分自身を一回りも、二回りも大きくしてくれる経験になったことに変わりはありません。イギリスで見たもの、聞いたこと、触れたもの、そして自分が感じたことをこれからの人生の大きな財産として大切にしていきたいと思います。

イギリス・リンカーンシャー州ボストン町

ロンドンから北へ約200kmのイングランド中東部に位置する田園都市。人口約54,000人、面積361km²。ホームステイ交流は平成6年からスタート。今回で9回目の派遣。派遣中学生総数は157名。



多民族国家オーストラリア M.Sさん (高校3年)

初めて行ったオーストラリアという国は、私が想像した以上に様々な国籍の人々がいて、異なる文化や環境、習慣が混ざり合っている多民族国家でした。どんな国の人でも優しく受け入れて、フレンドリーな気持ちで接してくれる『オーストラリア』がとても好きになりました。多くの人々と触れ合い、いろいろな国の文化、習慣、言葉を直接、肌で感じることで、オーストラリアの自由な雰囲気が伝わってきました。

私はこのホームステイを通して、人と人がコミュニケーションを図る時に一番大切なのは、相手のことを知りたい、仲良くなりたい、話をしてみたいと思う気持ちだと強く思いました。もちろん、言語力もとても大切です。でも、たとえ英語がうまく話せなくても、自分からたくさん話しかけたり、単語だけでもいいから、口に出して発してみれば相手に近づくことができます。

また、自分が経験したことがないことに挑戦し、自分の知らない世界を知ることの大切さを今回、学ぶことができました。そして、様々な国の人たちと関わったからこそ気づけたことがあります。それは、母国語に加えて、英語を話せることが、当たり前になっているということです。私のホストファミリーは、家庭でも英語でしたが、他の家庭では、学校では英語、家では中国語、韓国語、ヒンディー語などの母国語を話していたと聞きました。2か国語を話すことが普通のことなんだと実感しました。日本人はもっと生の英語に接する機会を増やしていかなければと思いました。これも、日本にいては気づけなかったことです。このプログラムでの経験を必ず生かし、これからもさらに視野を広げていきたいと思います。

オーストラリア・ニューサウスウェールズ州ペンリス市

シドニーから西へ約50kmに位置するシドニーの衛星都市。人口約178,000人、面積407km²。ホームステイ交流は平成5年からスタート。今回で9回目の派遣。派遣高校生総数は85名。



中国でのホームステイ M.Mさん (中学3年)

私は、最初、正直言って、中国に対してあまり良い印象がありませんでした。周りのみんなも、「えっ!?中国でホームステイ!?!」という反応が多かったです。でも、行って見て、中国って良いところだったなあと本当に思います。中国に着いて驚いたことは、暑さと交通量の多さです。スクーターに3人乗りしていたり、クラクションがやたら鳴っていたりと日本では考えられない環境でした。私たちが宿泊したホテルはとてもきれいな建物でしたが、ホテルの表通りと裏通りでは、景色が全く違いました。裏通りは、ボロボロのマンションやゴミが落ちていて道路が見え、貧富の差を実感しました。私は、5日目に熱を出して

しまい、病院で点滴を受けることになってしまいました。その日は、ホストファミリーとの対面、ホームステイの日でしたが、残念ながら参加することはできませんでした。とても楽しみにしていたので、絶対に治そうと思っていましたが、翌日には更に上がってしまいました。しかし、なんとか、その夜には、ホームステイ先に行くことができました。

パートナーの張虹雨(通称シェリー)は日本の歌手やアニメが好きで、少し日本語がわかります。とても勉強熱心で、私も見習わなければと刺激を受けました。

瀋陽市には、たくさんのお店があり、中心部には道があるところに必ずお店があり、買い物を楽しめます。この9日間は本当に幸せな9日間でした。帰りたくない気持ちでいっぱいでした。さよならパーティーでは、Tシャツに名前を書きあい、離れるのが嫌で泣きそうになりました。いつか必ず瀋陽市に戻って来たいと思います。

来年、瀋陽市からパートナーが来るまでに、もっともっと英語と中国語(!?)を勉強します。

中国江蘇省瀋陽市

上海市から西へ約200kmに位置する文化都市。人口約780,000人、面積1,538km²。ホームステイ交流は平成19年からスタート。今回で2回目の派遣。派遣中高生総数は15名。

H.I.A.
TOPICS

第23回JAPAN TENT-世界留学生交流・いしかわ2010

白山市プログラム—留学生とホストファミリーの新たな出会い

毎年夏の恒例となっているジャパンテントで、今年は29の国と地域から52名の留学生が、8月19日から22日まで本市で滞在しました。白山市プログラムとして、中宮ふるさと塾(代表 乾靖さん)の皆さんの協力で、尾口地区での岩魚つかみどりや吉野谷セミナーハウスで、流しそうめんを体験しました。午後は3つのコースに分かれて、押し花、ひのき細工、ちぎり絵を体験しました。

今回ホストファミリーを引き受けてくださったのは、市内37家庭の皆さんです。初日の対面式では、ドキドキ緊張しながらの対面でしたが、4日間を一緒に過ごし、お別れの朝には、抱き合って再会を誓っていました。



写真ともに、ホストファミリーと留学生の皆さん(市民交流センターでの対面式で)

中国溧陽市お茶まつりに参加

4月26日～30日

溧陽市の最大の行事である「第11回溧陽市お茶まつり」及び「第6回天目湖まつり」に同市より招へいを受け、魚直樹副市長、竹田伸弘市議会議長等3名が同まつりの開幕式に出席しました。市のトップである韓立明書記が、市の現状を説明した後、祭典への参加に歓迎の意を示されました。同市とは平成7年に友好都市を締結して以来、行政や民間レベルでの相互訪問をはじめ、平成19年から始まった中高生のホームステイ交流事業等で友好を深めています。



▲溧陽市でのお茶まつり開幕式

国際交流サロンの利用者5万人を突破

7月23日

市国際交流サロンの利用者が7月23日、5万人を突破しました。5万人目の利用者となった矢木マルコさん（北安田町）には、福住協会長から記念品が贈呈されました。矢木さんは、日系ブラジル人三世で日本には19年間住んでいますが、漢字などの勉強のために週1回サロンを利用しています。

同サロンは、外国人と日本人市民の交流の場として平成14年12月にオープンし、年間7千人近くの利用があります。



▲5万人目の利用となった矢木マルコさん(右)とそのご家族

田口さん、国際交流の振興・発展のために寄附

5月21日

湊町の田口功一さんから、本市の国際交流の振興・発展に役立ててほしいと、市国際交流協会に100万円のご寄附がありました。田口さんは、市国際交流サロンで日本語指導ボランティアとして活動する一方、バングラデシュ支援活動なども行っています。5月21日、同サロンで寄附を受け取った福住協会長が田口さんに謝辞を述べ、感謝状と記念品を贈呈しました。100万円は基金として積み立てられ、毎年、一定額を日本語指導ボランティアなど、主に国際交流ボランティアの活動推進のために有効に活用されます。



田口功一さん

アジア・オセアニアの大学生が文化体験

7月7日

JALスカラシッププログラムとして、アジア・オセアニアの大学生15名が白山市を訪れました。スカラーの学生たちは市内各所を見学した後、千代女の里俳句館で、小丸隆館長と金城大学短期大学部准教授のガート・ウエスタハウト氏から、俳句について学び、自国の言葉と英語で自作の句を作りました。松任ふるさと館で行われた夕食会では、市国際交流協会会員も参加し、スカラーの大学生がお国自慢の歌や踊りの披露を行うなど、白山市での1日を満喫しました。

ロシア・ウスリースク市から少年文化親善使節団が来市

7月10日～17日

露日協会ウスリースク支部と民間交流協定を締結している市ロシア協会の招きで、ウスリースク市から少年少女8名と引率者の市職員2名が、本市を訪れました。一行は滞在中、学習センターで公演を行い、太鼓グループやバレエ団と競演したほか、光野中学校と北辰中学校を訪れ、中学生と交流を行いました。

外国人市民が日本文化を体験

8月8日

外国人に浴衣着付け、お茶、お花を体験してもらう交流会（松任ふるさと館）をボランティアグループ「モーニンググローリー松任」が開催しました。浴衣を着た外国人の皆さんは、メンバーが持ち寄った野の花を思い思いに生け、花寄せを眺めながら、抹茶で一服し、ひとときの涼を感じていました。



ロータリークラブ留学生の往来

白山ロータリークラブと白山石川ロータリークラブのそれぞれの招きで、1年間白山市に滞在していたアメリカ人留学生、マイケルくん（写真右）とサンディーさんが、6月、帰国を前に、留学の成果を発表しました。2人は、市国際交流サロンで、1年間の日本での思い出やエピソードなどを、これまでお世話になった関係者の皆さんに上達した日本語で紹介しました。



一方、カナダからウィリアム・アンドリュー・クレックくん（通称ピリー）が、白山石川ロータリークラブの招きで、8月に来日しました。ピリーくんは、これから1年間、市内でホームステイをしながら、松任高等学校に通学します。

「皆さん、よろしくお願ひします。」





“サロンのページ”

白山市国際交流サロン利用ガイド

開館時間	午前9時～午後6時
休館日	月曜日(祝日の場合はその翌日)、12月29日～1月3日まで
場所	〒924-0872 白山市古城町2 (学習センター向い、松任文化会館横)
TEL/FAX	274-3371
E-mail	misalon@asagaotv.ne.jp http://www.asagaotv.ne.jp/~misalon/

最近の日本語クラス

記録的な猛暑となった今年の夏。暑さに負けず、汗びっしょりになりながら自転車で勉強に来た生徒さん達。「中国も暑いです。40℃以上あるよ」との声も。9月、2人のベトナム人男性ロイさんとトゥアンさんが研修生としての3年間の研修を終え、「帰国する前に、お世話になった皆さんにベトナム料理を食べてもらいたい」とベトナム料理教室を企画してくれました。ベトナム人8名、日本人7名が参加し、ベトナム料理を美味しくいただきました。2人は勉強の他にも、積極的にサロンのイベント等に参加し、日本人や他国の友達とも交流しました。「皆さん、私達のことを忘れないでください」とのメッセージを残して、帰国されました。前向きな2人は、ベトナムでもきっと活躍することでしょう。



▲9月で帰国されたベトナムのロイさん(左)とトゥアンさん(右)。(中央は、友人で中国の李さん)

ザ・インタビュー **日本に来ての感想を聞きました!**

○僕は日本に来てもう1年4ヶ月ぐらい日本に住んでいます。日本の生活と会社の仕事にもう慣れました。日本に来てびっくりしたのは日本の技術が進んでいます。日本の交通がすごく、きれいです。一番びっくりしたことは日本人です。本当に皆さんとても親切です。僕は日本に来ていろいろな事が分からないんです。日本語とか仕事とか生活など……いろいろな事を皆さんに教えて貰っています。本当に良かったです。これから僕も頑張りたいと思います。これからもよろしくお願いします。

パアン スアン ギア (2009年5月 ベトナムより来日)

○私は今年の2月に結婚して、5月に日本に来ました。もう4ヶ月ぐらいに経ちました。日本の生活にだんだん慣れて来ました。初めて日本に来て、一番印象深かったのは町が静かだし、周りの皆さんが優しい事です。上海はとても賑やかですから、私は静かなところが好きです。今白山市の国際交流サロンで日本語を勉強しています。先生達はとても優しいです。日本語やいろいろな日本文化などを教えて頂きました。ここでたくさんの友達も出来ました。毎日楽しいです。

房 静 (2010年5月 中国より来日)

友だちの輪

(外国人市民を紹介するコーナーです)

沢田秋子さん(青葉台一丁目在住)

マレーシアから日本に来ました。約18年が経ちました。一人息子の光といっしょに、夏休みを利用して、久しぶりに帰国しました。両親をはじめ、12人の兄弟姉妹たちと再会し、家族との絆を再確認でき、うれしかったです。マレーシアから、白山市に戻ってきた時、「家に戻ってきたなあ」と感じたのは不思議でした(笑)。帰国後、そうじに張り切り過ぎて体が痛くなって反省しています。週に2回、リハビリのためにプールに通っています。メンバーは同じ病気の人たちなので、話も弾みとてもよいストレス発散になっています。



沢田秋子さん▶

日本語指導ボランティア交流会を開催しました

6月13日、日本語指導ボランティア18名が参加し、日頃、疑問に思っていること、問題点などを話し合う意見交換会を開催しました。活動の曜日が違うと顔を合わせることもないボランティアの皆さんからは、「お互い顔がわかり、話ができて良かった」との感想が聞けました。サロン開設から早8年、外国人学習者の日本語レベルはアップしており、これからもボランティア同士の情報交換を行い、学習者のニーズにあったクラス運営を目指していきたいと思えます。



日本の生活習慣、マナー等の学習会—「世界で一番受けたい授業」

日本語指導ボランティアである大沼恵子さんが、日本語指導だけでなく、日本の生活習慣、マナー、年中行事や歴史など、日本で生活する上で、便利役立つ知識や常識を知ってもらおうと、7月11日、学習会を開催しました。普段、大沼さんが日本語を指導している学習者を中心に、4か国19名の外国人の方々を受講し、「へえ～、なるほど」「初めて知った」などと、感心することしきりで、興味深そうに聞き入っていました。

“あなたも親善大使”お便りコーナー

このコーナーは、草の根レベルで交流を行っている方を紹介するコーナーです。

今回は、3年前、中学2年生の時に姉妹都市アメリカ・コロンビア市ホームステイプログラムに参加した中村千尋さんからのお便りを紹介します。

コリとの再会

高次の夏一と聞くと、何か青春めいたものを感じます。私が過ごした高次の夏も「青春」と言い切れるほどの素晴らしい夏になりました。この夏休みに、私は、3年前のホームステイ交流でお世話になったコロンビア市のコリ家族に会いにアメリカへ行ってきました。アメリカへ行くことを伝えると、コリ家族は、コロンビアからシカゴまで出てきてくれました。シカゴにコリのおばさんの家があるので、そこで過ごそうとってくださったのです。約2年ぶりに再会したコリと彼女の家族は、初めて会った時と同じように、温かく私を迎えてくれました。2泊3日の短い期間でしたが、普通の旅行では味わえない貴重な時間となりました。私は、今回のアメリカ旅行で、自分の将来の夢が決まりました。それは、国際関係の仕事につくことです。コリも将来に対する明確な目標を持っており、それに向かって大学進学を目指していると言っていました。生涯の友となるであろうコリと一緒に互いに励まし合って、目標に向かって努力していこうと思います。

中村 千尋 (向島町)



▲再会したコリとコリの両親と(右端が中村さん)

シリーズ

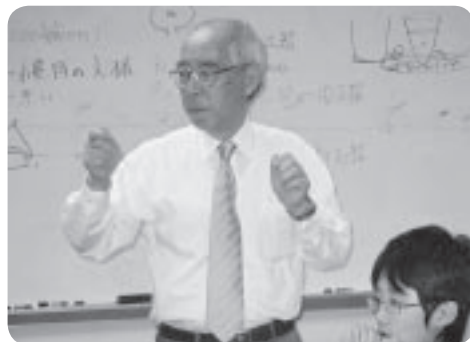
中島先生のアメリカ・ヒューストン奮闘記①

ヒューストン日本語補習校 校長 中島 満さん (白山町出身)

私は平成20年3月末、市立鶴来中学校校長を最後に37年間の教職生活に別れを告げました。12年間の校長職等の内、3年間、南米パラグアイにある日本人学校校長も経験しました。退職後は、花壇作りが活発な鶴来中学校へ出向き、友人たちと花作りや花壇の手入れをしていたところ、文部科学省に勤務する友人から、海外にある在外教育施設で学ぶ現地の日本人の子供たちの教育に協力してもらえないかとのお話を受け、シニア派遣教員として応募し、平成21年3月、アメリカテキサス州ヒューストンにある日本語補習校の校長として、妻とともに、現地に赴任した次第です。補習校では、幼稚園から高等部までの日本人家族の子息350余名の生徒が、日本語の授業を受けています。生徒たちは、月曜日から金曜日はアメリカの現地校に通学し、週1回、土曜日にこの補習校に来ます。

補習校では、主に、国語と算数・数学、社会などを6時間学習し、1年間で教科書を一冊完了するので、とても早い授業展開です。宿題もたくさん出ます。先生方はすべて現地採用で、政府からの派遣教員は私一人です。私の任務は、先生方に対する指導や管理、学校運営が主なもので、火曜日から土曜日までが勤務日です。時々、校長特別授業も行います。年間42日間の授業で、日本にいる子供たちと同様の学力をつけるのが目標です。

今回は、特色ある学校行事やヒューストンでの日本人教育事情について報告します。



▲6年生に縄文時代と弥生時代を指導する中島先生

シニア派遣教員

在外教育施設の更なる充実を図るため、文部科学省が海外に教員OBを派遣するプログラムです。派遣先では、管理職として業務にあたります。派遣任期は原則として2年間。

現在、本市出身の4名の青年海外協力隊員が開発途上国で活動されています。



隊員名：東野奈津恵さん(法仏町)
派遣国：エルサルバドル
職種：経済・市場調査
派遣期間：2009.3～2011.3

エルサルバドル最北部に位置する山岳地帯に、針を持たない特殊なミツバチから採れる薬効のあるハチミツが存在します。そのハチミツを生産物としたマーケティング支援が私の任務です。今年の5月、エルサルバドルを訪問されていた武正公一元外務副大臣を囲む大使館での夕食会に招待を受け、武正元副大臣にハチミツを試食していただきました。試食後、ぜひ、日本に送ってほしいとの言葉があり、加来大使のご厚意で送っていただきました。このプロジェクトは、JICA事務所を中心に、たくさんの方々から支援を受けています。今年は生産量も増加し、約2.7倍の売り上げが見込まれています。現在では女性グループも形成し、そのリーダーに販売のノウハウを伝え、ハチミツを利用した石鹸、シャンプーなどを製造・販売するプロジェクトを立ち上げ、ハチミツによる収益を増やしていく計画をしています。



ハチミツプロジェクトの記事が地元新聞に掲載されました。新聞を持っているのは東野さん



隊員名：長瀬拓己さん(長竹町)
派遣国：インド
職種：柔道指導
派遣期間：2009.9～2011.9

着任し、ちょうど1年が経過しました。初めは頭で解っ
 ていても言葉で伝えることの出来ない日々
 に悔しさを感じていましたが、1年経ってや
 っと技の説明がスムーズにできるようにな
 ってきました。正直まだ自分の伝えたいこ
 とを生徒にすべて伝え切れていません。残
 り1年間でさらに生徒とのコミュニケーション
 を築き、自分の柔道を伝えるために努力を
 惜しまず、自分が派遣されている意味を考
 え日々活動していきたいと思
 います。また最近、活動場所が増えて小学
 生も教えることになり悩みの種が増えまし
 たので、忍耐力(我慢)もこれから必要にな
 ると思います(笑)。南インド・ムンバイ
 の冬は朝だけが寒く、日中は夏と変わらな
 い暑さが続きます。練習にも気合が入る季
 節ですので、いっそう稽古に励みたいと思
 います。



「技術習得までの練習姿勢や礼の心を大切に指導しています」と長瀬さん



隊員名：柴田千尋さん(橋爪町)
派遣国：エルサルバドル
職種：助産師
派遣期間：2009.9～2011.9

一年がたち、依然としてスペイン語でのコミュニケーションは容易ではありませんが、職場の人たちや周りに助けられながら活動をしています。現在は、保健センタースタッフとともに母親教室、母乳育児教室の開催や妊婦さんや産後のお母さん、赤ちゃんの訪問を行っています。また、村落部を担当している保健推進員とともに、市の中心にある保健センターまではなかなか健診に来ることができない妊婦さんの訪問も行って、少しずつ活動の幅が広がっています。この国に来て、多くの人達に助けられ、支えられて自分が存在しているんだということを改めて実感しています。



村落部へ妊婦訪問を行う柴田さん(左端)



隊員名：小堀香奈さん(千代野東四丁目)
派遣国：ウガンダ
職種：音楽
派遣期間：2010.7～2012.7

ウガンダに来て、2ヶ月がたちました。日本から約23時間かけてようやく到着したウガンダで、ビックリしたことは、とっても過ごしやすい気候だということ！晴れている日のお昼は暑いですが、日陰に入れば、とても気持ちが良いです。朝晩は毛布にくるまって寝ています。この前は雹(ひょう)が降りました。

今は、任地であるアガリアム小学校で、音楽の授業を担当しています。子供たちはとても音楽好きなので、これからたくさんの曲と一緒に楽しんでいこうと思います！また、こちらの子供たちは、日本にとっても興味を持っているので、白山市の小学校との交流の架け橋にもなりたいと考えています。これからが楽しみです！



ウガンダの子供たちと小堀さん(中央)

※このほか、シニア海外ボランティアとして、中田勝之さん(幸明町)がペルーで経営管理指導をされています。

H.I.A.からのお知らせ

白山市・ペンリス市親善友好都市20周年特別展 「ユニフォーム」写真展 《ペンリス市企画》

シドニー在住の写真家ハロルド・テイヴィッド氏が独自の感性で撮影した、白山市民と藤枝市民のユニフォーム姿のポートレート写真展です。ほかに、畳のミニチュアを使った畳アート、藤枝市在住の木版画家の作品、山瀬晋吾さんの彫刻作品、角市長制作の抹茶茶碗などを展示します。（昨年、ペンリス市で開催された展示会の再現展示です。）

■会期：平成22年10月14日(木)～27日(水)

※オープニングセレモニー

10月14日(木) 午後1時30分から、ペンリス市のアーティストを迎えてオープニングセレモニーを行います。ぜひ、ご参加ください。ドリンクサービスあります。

■場所：市民工房うるわし(入場無料)



ペンリス市との交流20周年のあゆみ写真展

ペンリス市との交流20周年を記念し、これまでの交流写真やペンリス市の風景、ペンリス市から贈られた記念品などを展示します。(入場無料)

■期間：10月20日(水)～27日(水)

■場所：千代女の里俳句館 2階企画展示室

世界の料理と文化を学ぼうー参加者募集

普段使いの食材で、ご家庭で簡単に作れる料理です。ぜひ、ご参加ください。保育室あります。(予約要)

【中国薬膳料理】

■日時：11月15日(月) 午前10時～午後1時ごろ

■場所：健康センター松任

■メニュー：肉と玉子の蒸し物、スープ、野菜炒め

■講師：房 静(ほう せい)さん

【ベトナム料理】

■日時：11月25日(木) 午前10時～午後1時ごろ

■場所：鶴来保健センター

■メニュー：春巻き、スープ、ベトナム式そうめん

■講師：ハ ハウ ティ トウイさん

参加費各500円、定員各25名(申し込み順)

■持ってくる物：エプロン、ずきん、手拭きタオル

■問い合わせ&申し込み：市国際交流サロン

TEL 274-3371まで(月曜日休館)

第16回国際フレンドシップアート展

テーマ：『俳画-Haiga』

白山市の小学生と、親善友好都市等の子供たちの俳画作品を一堂に展示します。

参加都市：白山市、藤枝市、米国コロンビア市、ドイツ・ラウンハイム市、中国瀋陽市、オーストラリア・ペンリス市、メキシコ・メキシコシティ

会 期	会 場
10月20日～10月27日	千代女の里俳句館
11月 5日～11月10日	白峰小学校
11月14日 ※	松任文化会館
11月17日～11月25日	美川コミュニティプラザ
11月27日～12月 6日	松任図書館
12月 8日～12月16日	レッツホールつるぎ
12月18日～12月26日	市民交流センター

※加賀の千代女俳句ミュージカルに協賛

世界の絵本読み聞かせ

■日時：11月6日(土) 午後2時～2時30分

■場所：松任図書館読み聞かせルーム

■読み手：ターニャ・エイックさん(アメリカの絵本)

どなたでも参加できます。お気軽にどうぞ。

年忘れ！国際交流の集い2010〈事前通知〉

■日時：12月12日(日) 午前11時30分

■場所：サンライフ松任

〈ボランティアスタッフ募集〉

集いの内容をいっしょに企画してくださるボランティアスタッフを募集しています！ご協力をお願いします。

■申し込み：市国際交流サロンまで(TEL 274-3371)

金城大学留学生の1日ホストファミリー募集

市国際交流協会では、金城大学が行う中国人留学生のためのホームステイ体験事業に協力しています。日本の家庭での生活体験を希望している留学生のホストファミリーになってみませんか。ぜひ、ご協力をお願いします。

■ホームステイ期間：11月27日(土) 午後対面式・交流会から11月28日(日) 午前までの1泊2日です。

■ホームステイを希望している留学生：11名

■募集家庭：11家庭

■募集締め切り：11月10日(水)

■問い合わせ&申し込み：

市国際交流協会 TEL 274-9520まで

編集後記

12年前、父親が旧美川町出身の日系メキシコ人女性が国際交流員として旧松任市に1年間赴任し、日本とメキシコの友好に尽くしてくださいました。その女性は今、アメリカテキサス州に在住し、2児の母となっています。子供にルーツである“日本”を学ばせたいと現地の補習校に通わせていたところ、出会ったのがシニア派遣教員の中島先生だったというから奇縁としかいいようがありません。大きなアメリカ社会の中で日本を大切にしている彼女のことを思い出し、胸が熱くなりました。(U)

発行 ■白山市国際交流協会(Hakusan International Association)
事務局/白山市役所観光推進部国際交流課
TEL 274-9520 FAX 274-9546
E-mail: toshikouryu@city.hakusan.lg.jp